

平和カンパをありがとうございます

2017年8月 ベラルーシ「希望」
『腫瘍病・血液病・その他の病気の子もたちのための特別保養』
チェルノブイリ子ども基金

■場所：子どもリハビリ・健康回復センター

「ナデジダ（希望）」ベラルーシ ミンスク州ビレイカ地区

■期間：2017年8月3日～8月26日

■参加者：子ども28人（8～17歳／ゴメリ市、レチツァ市、モーズィリ市、ブダ・コシエリョヴォ市、スヴェトロゴルスク市、ホイニキ地区）、引率者2人。

■参加者の病名：脳腫瘍、目の腫瘍、悪性リンパ腫、精巣腫瘍、卵巣腫瘍、腎臓がん、血管腫瘍、血小板減少性紫斑症、染色体疾患（これらの病気の他、甲状腺、心臓、肝臓、胃、骨の異常、アレルギー疾患があるなど、ひとりていくつもの病気をもつ子どもが多い）。

子どもたちはゴメリから列車でミンスクへ行き、そこからナデジダのバスで到着しました。到着後、医師の診察が行われ、それぞれに治療プログラムが決められました。保養の中頃と最後にも診察があり、治療の効果を確認します。午前中は治療（マッサージ、運動療法、アロマセラピー、スペレオセラピー（塩治療：天然の塩の部屋で過ごすことで呼吸器の病気に効果がある）、薬草療法）、午後はクラブ活動（陶芸、絵画、手芸、木工細工、音楽）やコンクール、スポーツ大会、コンサートなどの催し物があり、夜はディスコや映画上映があります。子ども基金スタッフによる教室は、紙を巻いて作るプレスレット（材料は募金者の方からのご寄付）、折り紙、書道でした。

子どもたちと一緒にやってきた二人の引率者（看護師と教師）、ナデジダの教育担当者、心理カウンセラー、医師たちは、一人一人の様子に気を配り、心身ともに支える体制になっています。保養期間中、何人かの子どもが熱を出すなど風邪の症状が出て、医療棟で何日か過ごしました。医師は、「がんの治療を受けた子どもたちは免疫力が低いのでウイルスに感染しやすい」と言います。引率者がある男の子の顔が赤いのに気づき、熱のあることがわかりました。少し前から頭が痛かったそうです。「どうしてすぐに言わなかったの」と聞くと、「みんな



と遊べなくなると思ったから」と答えたそうです。

重い病気を患った子どもたちは、病院や医師を怖がったり、可愛そうだからと親が甘やかしてしまいがままになったりすることも多いそうです。しかし親を離れ友だちと過ごすことで、自立心が強くなると言います。

●心理カウンセラー：医療・心理・食事に加え、クラブ活動やイベントに参加することで、子どもたちは前向きな気持ちになる。それが健康回復に役立っている。

●医師：7月に福島の親子たちがナデジダに来てベラルーシの親子と交流をした。日本から助けてもらった私たちが、今度は私たちの経験を彼らに伝えた。世界にはいろいろな悲劇がある。将来のある子どもたちの健康を第一に考え、お互い助け合うことが大切。

●ナデジダ職員：ナデジダで最初の外国のプロジェクトは子ども基金のものだった。それが今でも続いている、そしてそのおかげで諸外国のプロジェクトが始まったことは大変素晴らしいことだと思う。

<子どもたちの感想>

最後に行われたアンケートの「来年もまたこの保養に参加したいですか？」の質問に、全員が「はい」と答えました。「何が一番楽しかったか」の質問には、「陶芸教室」「手芸教室」「スポーツ大会」「友だちと遊んだこと」などの答えがありました。「マッサージ、スペレオセラピー、アロマセラピーの治療を受けた。食堂の食事は全部おいしかった。おやつもたくさんだった。ここに来たのは初めてだったが、環境にはすぐに慣れて、新しい友だちもたくさんできた。来る前より体調がよくなったと感じる」（イリヤ・13歳・ゴメリ市）

【太陽光発電施設が完成】

ナデジダでは、8月から出力600kwの太陽光発電がスタートしました。太陽の出ている日なら、ナデジダの電力を全て賄えるそうです。保養に参加した子どもたちは、ドイツの支援によるソーラーパネルを見学しました。

チェルノブイリ子ども基金

〒177-0035 東京都練馬区南田中 2-7-7 TEL/FAX 03-6767-8808 E-mail cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

HP <http://ccf.j.la.coocan.jp/> ◇事務局だより（ブログ） <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>